

## 定款改正案を仮承認、一般法人への移行めざす

社団法人日本内燃力発電設備協会（以下、内発協）は5月20日、都内のホテルグランドパレス3階の松の間で、第35回通常総会を開催しました。総会では、平成21年度事業報告および決算報告、平成22年度事業計画および収支予算、理事および監事の役員の選任、公益法人制度改革に伴う定款改正（案）の仮承認など、全議案について原案どおり承認されました。

そのうち、公益法人制度改革への対応については、一般法人への移行申請を平成23年度中に行う予定であり、引き続き、検討を進めていくこと。また、一般法人となるための要件として定款の改正が必要となることを受け、事務局が作成した今後の議論の叩き台となる定款改正（案）が提示され、事務局より説明が行われました。なお、定款改正（案）については、今回、仮承認を受けましたが、内容についての精査を進めていくこととなりました。さらに、役員の選任については、辞任届出があった三菱電機株式会社からの理事とUDトラックス株式会社からの監事についての交替が承認され、それぞれの後任として、理事には三菱電機の長崎製作所所長・森田俊二氏、監事にはUDトラックスの執行役員常務・岩倉和彦氏が就任することが承認されました。任期は前任者の残任期限である来年5月30日まで。

同日は、総会の後、引き続き同じ会場で、内発協の委員会運営に対して多大な貢献をされた委員などを表彰する「功労者感謝状贈呈式」が実施されました。今回は4名が表彰され、吉田会長から感謝状および記念品が贈呈されました。政策審議委員会の運営功労者として、UDトラックス株式会社のシニアエキスパート・赤松茂夫氏、株式会社オーハツの代表取締役社長・芝谷康二氏の2名が表彰されました。また、専門技術者事業の運営功労者として専門技術者講習・試験の講師を務める川崎重工業株式会社の担当部長・井上俊彦氏、調査研究事業の功労者とし



写真上段は開会あいさつした吉田藤夫会長。下段は左から乾杯あいさつの中村直生副会長、中締めあいさつの久保山英明副会長。

てガス供給系統評価委員会委員長を務める神戸学院大学教授・佐藤忠信氏がそれぞれ表彰されました。

その後、会場を同ホテル4階のゴールデンルームに移して、総会懇親会を開催しました。懇親会では、吉田会長の開会あいさつに続き、来賓あいさつが行われ、経済産業省 原子力安全・保安院 電力安全課課長・櫻田道夫氏、総務省 消防庁 予防課課長・濱田省司氏がそれぞれの立場から祝辞を述べました。また、内発協副会長のコマツディーゼル株式会社代表取締役社長・中村直生氏による発声で参加者全員が乾杯を行い、懇親へと移りました。2時間に及んだ懇談の後、デンヨー株式会社 代表取締役会長兼CEO・久保山英明氏による音頭で全員が3本締めの手拍子を打って中締めを行いました。懇親会には当協会正会員と来賓を合わせて約150名が参加しました。



写真上段は左から第35回通常総会。来ひんあいさつした櫻田道夫電力安全課長と濱田省司予防課長。  
下段は左から功労者表彰を受けた赤松茂夫氏、芝谷康二氏（代理）、井上俊彦氏。

## 総会懇親会あいさつ(要旨)

社団法人 日本内燃力発電設備協会  
会長 吉田 藤 夫

平素より協会活動にご支援、ご協力賜りまして、厚く御礼申し上げます。先ほど、当協会の第35回通常総会を皆様のご協力により、無事終了させて頂きました。今回の総会では、一般社団法人への移行に必要な定款改定案に係る長時間の審議もあり、また、任期途中ですが役員2名の交代があり、三菱電機株式会社 長崎製作所所長の森田様が後任の理事として、UDトラックス株式会社常務の岩倉様が後任の監事として、それぞれ選任されたことをお知らせします。

総会懇親会では、ご来賓として、経済産業省 原子力安全・保安院電力安全課長の櫻田様、総務省・消防庁予防課長の濱田様、国土交通省建築指導課幹部の方をはじめ関係の方々においで頂いています。各団体の幹部の方々にもご出席頂いております。業務ご多忙の中、誠にありがとうございます。会員の皆様には、本日は、短い時間ですが折角の機会ですので、懇談や意見交換など、できるだけこの場を有効にお使い頂きまして、懇親を深めて頂ければ幸いです。

さて、当協会の平成21年度の事業報告について申しますと、厳しい経済環境を反映したものとなりました。専門技術者事業はほぼ同年度計画を達成しましたが、製品認証事業は全体的に不調で、防災用自家発電装置の適合マーク発行枚数については平成21年度は4,850枚弱で、当初の年度計画比で5%の減、前年度実績比で7%減でした。また、協会全体の事業収入は2億8,200万円で、当初の年度予算比5%減、前年度実績比で10%減でした。ただ、

費用の方も減少し、収支差額では500万円弱の黒字となりました。厳しい年でしたが、黒字で終えることができたのは、経費節減等の努力もさることながら、会員の皆様のご協力のおかげでもあり、感謝申し上げる次第です。

平成22年度の事業計画については、景気の先行きは回復の兆しが見えはじめ明るさを取り戻しつつありますが、自律性は弱く、デフレや高失業率が改まらず、依然として厳しいと予想されることから、当協会としては、製品認証事業、専門技術者事業とも、前年度実績並みの計画としています。ただ、製品認証事業の4月の実績速報は幸いよい結果が出ていて、出足はよいので、今後もこの調子で進むよう期待しているところです。

公益法人改革対応については、去年の総会で「平成23年度に非営利型一般社団法人への移行申請を行うこと」が承認され、申請の準備作業を進めてきました。本日の総会では大きな課題である定款改定案を審議、承認（※仮承認）して頂きました。移行申請の直前の本年は検討、整備すべき課題も多く、引き続き、遺漏のないよう定款改定に係る準備作業を進めていく所存です。

当協会の役割・業務は、自家発電設備についての品質性能の確保・向上を図るため、設備の製品認証、設備の製造・据付工事・保全業務に携わる専門技術者の養成、NEGA規格・技術基準の整備、必要な技術情報の提供・発信等を幅広く行い、公共の安全に資することです。これは、安全性確保と信頼性向上に係る仕事であり、安全・安心な社会存立の基礎として、重要不可欠な条件です。その重要性は経済情勢や景気に左右されるものではありません。改めて当協会の役割・業務の重要性を再認識し、自家発電設備の保安確保の業務を通じて今後も公共の安全に貢献して参りたいと考えています。皆様には今後も、ご支援ご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に、本日ご列席の皆様方のご健康とご多幸、社業のご盛運をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。